

組合を支持、港湾自動化に反対 ■トランプ次期大統領、北米東岸労使交渉で

米国のトランプ次期大統領は現地時間12日、北米東岸港湾の労働組合である国際港湾労働者協会（ILA）のハロルド・J・ダゲット委員長およびデニス・A・ダゲット副委員長と会談した。トランプ氏は会談後、自身のSNSを更新し、組合を支持するとともに、米国における港湾ターミナルの自動化に反対する考えを示した。

北米東岸港湾の労使交渉は現在、行き詰まりを見せている。主に港湾ターミナルの自動化を巡って労使の対立が激化しており、ILAは雇用の喪失や安全保障などの観点から自動化・半自動化に反対している。現行労働協約の期限は来年1月15日までに延長されたが、残り1カ月に迫っている。組合は今年10月に米国東岸・メキシコ

湾岸の港湾で1977年ぶりの全域ストライキを行ったが、再びストライキを実施する可能性がある。

こうした中、ILA幹部はトランプ次期大統領と会談した。トランプ氏は労働協約満了直後の1月20日に大統領に就任する予定となっている。

トランプ氏は会談後、自身のSNSで、「（港湾ターミナルの）自動化によって節約される金額は、米国の港湾労働者が受ける苦痛や損害に比べればはるかに少ない。外国企業は米国市場へのアクセスを通じて、米国で大儲けし、記録的な利益を上げている。この利益を高価で定期的に交換が必要な荷役機械ではなく、港湾で働く優秀な人たちに使ってほしいと思う。米国の素晴らしい労働者を解雇して、



トランプ氏と組合トップが会談した（写真出所=ILA）

利益を外国に送り返すのではなく、雇用すべきだ。今こそ米国第一主義を貫く時だ」とコメントした。

ILAのハロルド・J・ダゲット委員長はトランプ氏の投稿に対し、「支持してくれたことに感謝している」とし、「この強い支持のもとに、（使用者団体の）米国海洋連合（USMX）との協議の中で、自動化・半自動化に関する文言を削除することを働きかけ、混乱なく新しい労働協約が締結できることを期待している」とコメントした。